

企業会計の、わかりにくい数字の羅列を色と面積比率で表示

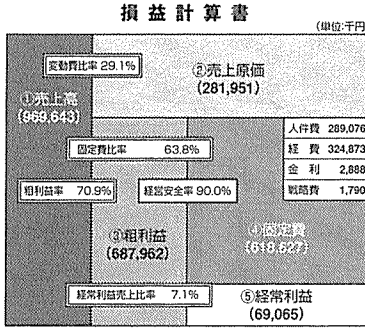
財務会計を経営の戦略的指標に

目で見て、自社の経営課題がわかる会計

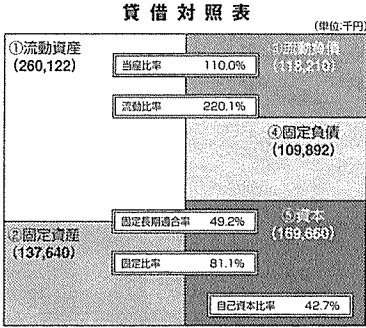
黒永会計事務所

「財務諸表」や「キャッシュフロー」という言葉で表現される企業会計の世界。それは堅苦しい専門用語と複雑な数字の集合体であり、多くの経営者に

「難しい」「わかりにくい」という印象が強いようだ。しかし、その数字の集まりを項目別に色分けし、数値を面積比率やグラフの図表で表示。はよりの「見える化」を、さらに一歩進めて、財務会計を、だれにも、わかりやすく「見える」ようにし、経営者たちの人気を集めているのが黒永哲至氏の「決算図表」や「図解キャッシュフロー計算書」(特許申請中)である。



会社の健康状態が一目でわかる貸借対照表(左)と損益計算書(右)



資本合計 397,762 負債・資本合計 397,762 労働分配率 = 42.0%

「会計事務所が提示する決算書は正しい納税をするための計算結果で、わかりにくく、お金の出入りに時間的ズレもあり実際の経営には役に立ちません。多くの経営者の方々が敬遠するのでも、その複雑さとわかりにくさにより、実際、損益計算書では黒字なのに、資金繰りがうまくいかず黒字倒産という事態が発生することもあります」と申告のための会計と現実の資金計画など企業経営のための会計との違いを、熱を込めて解説する黒永氏。同氏は、平成元年に現在の黒永会計事務所を開設し、以来、財務会計や経営コンサルタント等に従事しながらも、常に、会

計申告の煩雑さと難しさに接しており「何とか、もっとわかりやすく簡単に、かつ、その処理と利用をスピーディーにできないものかと考えていた」と言う。そして、思案・工夫し、試行錯誤を重ねて開発したのが「項目別数値の色分けと比率化」というオリジナルツールであり、数値の羅列であるわかりにくい決算書も、わかりやすく図表化し、会社の経営状態も資金の流れも、目で見て理解することができるようにしたのである。



黒永哲至所長

そして、「たとえば、決算図表(上の図、白黒のトーンが実物ではカラー表示)では、色分けした図表で経営状態が一目でわかります。損益計算書で見ると白色⑤(経常利益)の割合が多いほど経営状態は良好。また、④(固定費)と③(粗利益)の比率、つまり経営安全率も重要です。④が小さく③が大きいほど経営状態が良く、数値が90%を下回れば経営は良好といえますので、80%台を目指したいところです。また、貸借対照表を見るポイントは①(流動資産)が多いほど良い状態です。

逆に③(流動負債)が多いと良くありません」と図表を示しながらわかりやすく解説してくれる黒永氏。また、難しい財務分析も、キャッシュの推移を表とグラフに表すことで「現在の売り上げで、経費はいくらが適正か。同業種と比べて自社の売り上げ規模で人件費の比率は多いのか。ボーナスはいくら出せるのか。いくら借金できるのか。そういった、会社が動かせるお金の適正数値が明確にわかります。経営者が知りたいのは、実際にいくらのキャッシュが入り、いくら出ていったかということ。会計事務所などで使われている試算表では経営者が本当に知りたいことがわかりにくのが現状です。しかも数字の羅列は年配の経営者にとって非常に見づらいものです。それを目で見てわかるように、色と図形で理解できる図表にしたのです」と言う。だから、全体の経費の中で何を抑え、どこに資金を集中すべきかが判別でき、また、毎月の必要なキャッシュや、そのための売上げも明確になり、さらには年間の必要な利益も具体的に把握。年間の売上げ目標も定まるのである。つまり、会計を経営の戦略的な指標として積極的に活用できる、というわけである。(詳しくはホームページ「黒永会計」を参照してください)

東京都新宿区西新宿7-21-21
03-3363-0118